

令和7年度学校評価表

1 学校教育目標	
教育基本法並びに学校教育法の精神にのっとり、中学校教育の基礎にたつて、様々な学習活動を通して知識や技能を修得させ、個性豊かな良識ある社会人を育成する。	
2 中・長期的目標	
(1) 生徒が基本的生活習慣を身につけ、社会や学校のルールやマナーを守ることの大切さを理解して行動するよう意識向上を図ります。 (2) 生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を維持し、生徒・教職員ともに授業を第一としてその改善に取り組み、基礎学力向上と知識・技能の習得を図ります。 (3) 生徒・教職員ともに思いやりの心をもって自分自身と他者を尊重し、「いじめ・体罰・ハラスメント」は「しない・させない・許さない」姿勢で臨み、学校が丸となってその防止に努めます。 (4) キャリア教育を充実させ、早期から進路意識の形成を支援し、学習や学校諸活動における協働的活動を通して自己実現と社会につながる力を高めます。 (5) 本校の教育活動について、ICT活用を推進し、情報発信に努めます。また、生徒・職員全員が保護者・地域と学校との関わりの大切さを認識し、地域に愛され、信頼される学校づくりを目指します。	
(A:達成している B:やや達成している C:やや達成していない D:達成していない)	
3 中・長期的目標に基づく 今年度の重点目標・具体的方策	
具体的目標と方策	評価の観点
(1) に係り	
①《生徒会係》 生徒会の各委員会が、「協働」に係る具体的な目標を掲げ、ひとりひとりが分担した活動を主体的に取り組み、公民的生活を築く。	・生徒にとって具体的な目標を各委員会が設定できたか。 ・それに基づき、主体的にコミュニケーションをとりながら委員全員で活動をし、公民的生活の環境作りができたか。
②《生徒会係・生徒指導係・図書防災清美担当》 挨拶運動・清掃活動を、生徒会主体で継続的に行う。 また職員個々が積極的に生徒への声掛けをし、挨拶・清掃活動を励行する。	・生徒会で活動の企画、継続の実施などができたか。 ・校風確立週間での挨拶運動を通じて、挨拶への意識を高めることができたか。 ・校内校外の清掃活動を行うことで、美化や分別などの意識を向上させることができたか。
③《生徒指導係・学年》 遅刻・早退・外出や服装や頭髪・盗難・交通マナー・携帯電話やスマートフォンのマナーなどに係る規範意識の向上に努める。	・HRや授業、校風確立週間や街頭指導、昼の立ち番指導など、日々の学校生活を主として、規範意識が深められたか。
(2) に係り	
①《各教科》 授業公開などの実施を通じて、お互いによりわかる授業を目指す。	・各教科で授業公開等の実施をしたり、授業アンケートの結果を生かして授業改善等に役立てることができたか。
②《学年・各教科》 課題等により、家庭学習・自学自習の習慣を身に付けさせる。	・学年、教科で課題（週末課題または長期休業課題等）が継続的に実施できたか。 ・学校生活アンケートをもとに、生徒の実態を把握することができたか。
③《各職員》 正味50分の授業を実施するとともに、生徒の授業への遅刻をなくす。	・50分授業確保にむけての態勢づくりが出来たか。 ・ICT機器を用いるなどして生徒の学習の機会を提供することができたか。
④《学年・図書担当》 図書館運営の基本方針に基づき活動し、読書意識の涵養を図る。	・たよりの発行等を通じて情報発信に努め、図書館の利活用に繋げることができたか。 ・読書週間の設定により、読書意識の涵養をはかることができたか。
(3) に係り	
①《教務係・生徒指導係・各職員》 学校生活のきまりを明確にし、規律ある学習環境づくりを行い、すべての生徒が安心して学習できるようにする。	・学校生活や授業のきまりを生徒や保護者にわかりやすく明示し、周知することができたか。また、その徹底を図ることができたか。 ・HRや授業などを通じて、生徒ひとりひとりの状況を把握し、職員間の情報共有や生徒支援を行うことができたか。 ・係会や学年会を通じて、改善に向け検討しながら進めることができたか。
②《生徒会係・学年》 生徒会行事・学年行事の「協働」を通して団結力を高め、生徒の集団づくりを促す。	・協力し合い成し遂げる喜びを体得できる小さな「協働」を提供し積み重ねることができたか。 ・生徒が他者のために貢献し、互いに長所を認め合うなどの自己有用感が持てるような支援や振り返りができたか。
③《生徒指導係・学年》 「いじめは絶対に許さない」姿勢を周知徹底させる。	・いじめ防止にかかわる学校の姿勢を生徒・保護者に対して発信、周知徹底ができたか。
④《生徒指導係》 多様性を認め合うなどの人権意識を向上させ、いじめの未然防止に努める。また、いじめアンケートを主とする早期発見・早期対応のための取り組みを行う。	・日々の活動を通して、生徒の人権意識を高めることができたか。 ・いじめアンケートの回答に早期に対応することができたか。
⑤《生徒指導係・学年》 人権に係る指導や面談を継続的にを行い、暴力やいじめなどを見逃さない取り組みを強める。	・HRや授業など様々な学校生活の場面において日常的に機に応じた指導が行えたか。 ・暴力やいじめなどについて適切な指導がなされたか。

(4)に係り	
①《学年・進路指導係》 進路指導の方針や指導計画を、より具体的なものとし、全職員の共通理解を得る。	・より具体的な指導方針・計画が提示され、職員の共通認識が得られたか。 ・計画にもとづき、継続的な指導がH Rで実践できたか。
②《進路指導係》 進路に向けて生徒個々の意識向上への働きかけをする。 (キャリア教育の推進)	・仕事への関心を持たせることができたか。 ・看護体験等の各種体験事業・インターンシップ・オープンキャンパスへの参加が増えたか。
③《進路指導係》 組織的な進学・就職・公務員等それぞれの適切な指導を実施する。	・進学希望者、就職希望者、公務員希望者それぞれに対して指導が効果的に行えたか。
④《進路指導係》 生徒への継続的な進路相談の機会を提供する。	・進路相談(面談)を定期的に行うことができたか。
(5)に係り	
①《生徒指導係》 生徒指導のきまりや懲戒指針などが保護者に十分理解されているか。	・入学時やP T A総会、懇談会等の折に、全学年にわたり資料提示や説明がなされたか。
②《教務係・同窓会担当》 地域や同窓会との関わりを密にし、期待や要望にそった活動となるよう努める。学校の活動を通して、地域の活性化に繋がるよう努める。	・学校評議員会で挙げられた意見を参考に、松涛祭や松代でのイベントに積極的に関わることができたか。 ・総合的な探究の時間を通して、地域を理解し、地域に根ざした活動を行うことができたか。 ・活動をH Pなどで地域に発信することができたか。
③《学年・教務係》 学校での活動を分かりやすく地域や保護者に発信することで、保護者の理解を深め、地域との連携を深めることに繋げる。	・学級活動においては学年通信や学級通信、保護者への密な連絡を通して、生徒や保護者の理解を深めることができたか。 ・H Pの更新により、地域に向けて学校活動を周知することができたか。
④《生徒会係・各職員》 生徒会や職員が、地域と積極的に関わる。	・地域の活動に積極的に参加することができたか。 ・職員の街頭指導により、挨拶や公共のマナーを向上させることができたか。
⑤《P T A担当》 P T A総会や松涛祭、その他のP T A活動の在り方を工夫、検討しながら、保護者の理解協力が得られる活動を目指す。	・保護者アンケートを通じて意見を把握することができたか。 ・参加率を増加させるために工夫することができたか。 ・保護者の理解を深められるよう検討することができたか。